

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	南海部郡蒲江町立蒲江小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	12
児童数	13	22	25	16	23	24	0	123	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力が身につく指導のあり方をめざして
-----------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数          児童の理解の状況に差が出やすい教科である。また、基礎基本の定着状況をつかみやすく、学力向上の指導改善を図る教科として適していると考えた。</p>
---

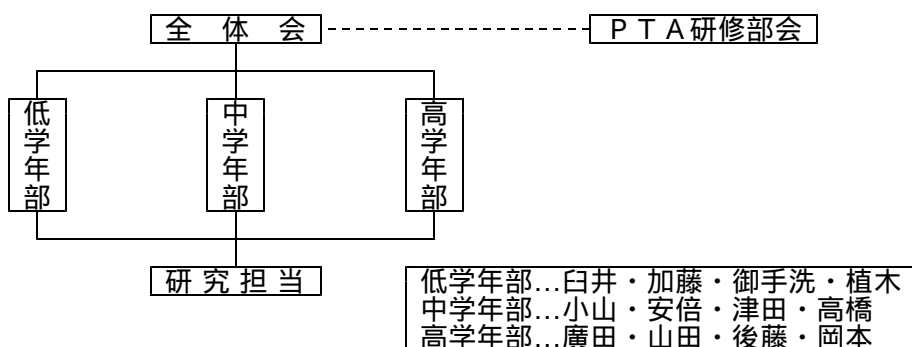
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ          確かな学力が身につく指導のあり方をめざして          研究の見通し(仮説)          個に応じた指導法、指導形態の工夫をし、基礎基本の確実な習得をめざした系統的な指導を行えば、確かな学力が身につくであろう。          研究の内容・方法          基礎技能の向上          ・計算技能など日常的な繰り返しによる指導(百マス計算)          生活力・学習力の向上          補充的な学習          ・系統性のある学習プリントの開発(蒲小プリント)          ・蒲小タイムでの個に応じた指導(学級裁量・TTの活用)          指導方法・指導体制を工夫した検証授業          ・外部人材の活用          ・課題別グループ学習          ・TTの活用          ・情報機器の活用          ・学習のパターン化          ・個に応じた評価法など</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ          確かな学力が身につく指導のあり方をめざして          研究の見通し(仮説)          学力向上をめざした指導体制を組み、自力解決と自己評価を取り入れた発展指導と、そこに至るまでの定着指導の工夫で学び(指導)の変容を図っていけば、確かな学力が身につくであろう。          研究の内容・方法          学力向上をめざした指導体制          ・生活力・学習力を高める指導体制          (学校と家庭との連携 ... ハッピーライフカードの実践)          ・基礎的技能向上のための場と指導体制</p>
--------	---



### 研究組織図

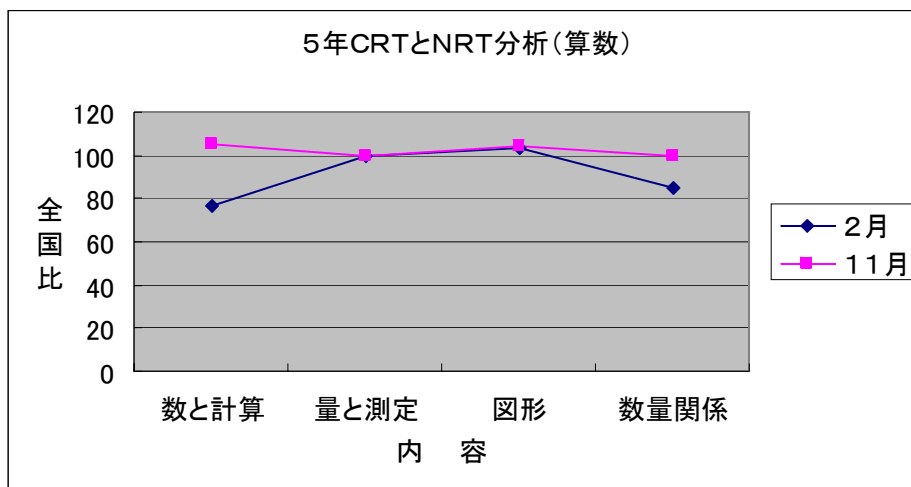


研究班を組織し、全教職員で研究していく体制にした。各班の研究発表を夏季休業中に行い、2学期からの指導に生かしていった。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

算数 内容	平成15年2月実施 (CRT) 2月			平成15年11月実施 (NRT) 11月		
	正答率	全国正答率	全国比	正答率	全国正答率	全国比
数と計算	60.1	77.7	77	72.4	68.8	105
量と測定	68.3	68.0	100	69.3	69.3	100
図形	94.2	91.7	103	83.0	80.0	104
数量関係	57.6	67.5	85	70.7	70.7	100



上記は、5学年の2月と11月の学力検査の比較である。算数科の各領域とも伸びが見られる。これは、TT形態による個に応じた指導と、操作活動や教育機器を活用した指導の工夫など、授業改善を全教職員で行ってきた成果であると考えられる。

コース別授業、課題別授業など、個に応じた指導体制の工夫を実践することにより、学習内容をより定着させることができた。

単元の学習後に発展学習(チャレンジタイム・オープンタイム)を組んだ。自力解決力がつき、学習に意欲的に取り組むようになってきた。

集会(月...海の子集会国語、火...海の子集会算数)の活用により、基礎技能の向上がより図れるようになった。

生活力・学習力を高める実践として、学校と家庭との連携を図り、ハッピーライフカード(生活点検表)の取り組みを始めた。児童が意識して生活するようになり、家庭学習の習慣化を図れるようになってきた。

## 2. 今後の課題

基礎・基本のより確かな定着を図るため、数学的な考え方を育てる授業と習熟を図る授業の指導過程を工夫改善していく。  
単元の学習と発展学習との関連性を図り、わかる - できる - よりできる ようにするための指導方法・指導体制の工夫改善に取り組む。

### 学力等把握のための学校としての取組

学力調査（C R T）の実施  
・調査目的... 1年間の指導によって、学力の向上は図られているか調査、次年度の指導の改善に生かすため  
・実施時期... 2月

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会の開催予定  
・期日...平成16年11月中旬頃  
・対象...全県下  
・目的...本校の研究を公開し、他校の学力向上に役立ててもらうため  
HP上に研究の概要を作成し、公開中である。( <http://www.saiki.tv/~kamae-es> )  
7月25日...大分県教育センターの小学校教科等指導研修（算数科）にて発表した。  
7月28日...口北小学校（広島県）が本校訪問の際、研究内容を説明した。  
「学力向上フロンティア事業」指導資料第2集に掲載する。  
PTA研修部と連携し、基本的な生活習慣・家庭学習・自立面についてのアンケートを実施。アンケート集約をもとに、PTAの懇談会で話し合ったり、講演会を開いたり、PTA広報誌に記載したりして、生活力・学習力の向上を図っている。  
学校評議員会（年2回）における研究の概要や経過の説明をする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】              ■ 6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                      ■ その他
- 【研究教科】               国語                       社会                      ■ 算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無